



徳島の土地改良

2024

1

No.179



シンビジウム（阿波市）

CONTENTS

- 新年のご挨拶
岡本芳郎 徳島県土地改良事業団体連合会会長
後藤田正純 徳島県知事
二階俊博 全国土地改良事業団体連合会
進藤金日子 参議院議員
宮崎雅夫 参議院議員
- 令和6年度農業農村整備事業関係予算
概算決定の概要
- 第45回全国土地改良大会福井大会
- 農業農村整備の集い
- 令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会
- 農業農村整備事業の更なる推進に向けた要請活動
- 令和5年度換地関係異議紛争処理実務研修会
- 令和5年度土地改良施設の整備補修事例検討会
- 会議・行事



新年のご挨拶

水土里ネット徳島
徳島県土地改良事業団体連合会

会 長 岡 本 芳 郎

令和6年の新春を迎え、謹んでご祝詞を申し上げます。

本年は元日に石川県能登半島を震源とする地震が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

会員各位並びに農業農村整備事業関係者の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、平素より本会の業務運営に格段のご高配を賜りますとともに、農業農村整備事業の推進に多大なるご尽力とご協力をいただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、ワールド・ベースボール・クラシックでの侍ジャパンの劇的な優勝や杭州アジア大会での日本人選手の活躍、将棋界では、藤井聡太棋士が史上初の八冠を達成するなど明るい話題に沸くとともに、3年余り続いた国の新型コロナウイルス対策も5月に大きな節目を迎え、感染症法上の5類に移行し、抑制されていた国内の人流が回復するとともに、日本を訪れる外国人の数も増加しインバウンド需要が回復するなど、社会経済活動に活気が戻る一年でありました。

一方、農業・農村においては、過疎化や農業従事者の高齢化により、農地や農業用水の管理、営農や集落維持活動の継続が困難になるなど、様々な問題に直面しています。また、現在も続くロシアのウクライナ侵攻により浮き彫りとなった我が国の食料安全保障の課題や、地球環境問題への対応、海外の市場の拡大等、我が国の農業を取り巻く情勢が大きく変化しています。さらに、依然として続く肥料・資材価格や燃油・電力などのエネルギー価格の高騰は、農業従事者に大きな影響を及ぼし、とりわけ揚水機等を維持管理する土地改良区においては、急激な電気料金の負担増が財政を圧迫する状況が続いております。こうした状況を踏まえ、本会では、全国土地改良事業団体連合会等と連携し、物価高騰を踏まえた農業農村整備関係予算の確保や土地改良区の運営支援などについて、国への要請活動に取り組んでまいりました。

こうした要請活動の結果、昨年末に閣議決定された国の令和6年度農業農村整備事業関係予算の概算決定額は、対前年度比で100.1%の4,463億円、令和5年度補正予算1,777億円と合わせて6,240億円となっており、6年連続で6,000億円を上回る予算額が確保されました。生産効率の向上、農業の高付加価値化を図る農地の大区画化・汎用化や、水田における高収益作物の導入、スマート農業の推進、また、土地改良施設の長寿命化や防災・減災対策の推進など、農業農村整備事業の一層の推進が図られるものと大いに期待しているところです。

本会といたしましても、農業農村整備事業の強力な推進による「強い農業と活力ある農村」の実現に向け、国・県と緊密に連携し、現場の声をしっかりとお聴きしながら、これまでの経験や培ってきた技術を最大限発揮して、会員皆様のご期待に応えられるよう、役職員一同、全力で取り組んで参りますので、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとって幸多き一年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

徳島県知事 後藤田 正 純

新年明けましておめでとうございます。

まずはじめに、元日に発生しました能登半島地震で亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

さて、皆さまはどのような新年をお迎えでしょうか。

私は、昨年5月に徳島県知事に就任し、県政のかじ取りを担わせていただくこととなり、初めての新年を迎えました。

県民の皆さまのご期待に応えることができるよう、本年も、様々な取組を全力で進めて参りますので、よろしく願いいたします。

昨年は、原油・原材料高や円安の影響による物価高騰が、県民生活に大きな影響を与えました。

加えて、本県をはじめとした地方では、少子高齢化や若者の流出、それに伴う労働力不足など、静かなる有事が進行しており、徳島は、今まさに、勝ち組と負け組が分かれる地方の正念場「地方創生戦国時代」の真っ只中にあると言えます。

一方、「2025年大阪・関西万博」を間近に控えた本年は、一層の飛躍に向け、歩みを進める重要な年です。

厳しい環境に臆することなく、激しい競争を勝ち抜き、すばらしい徳島を未来に引き継いでいくため、「県民目線」と「現場主義」で「未来志向の挑戦」をさらに加速させていきます。

特に、昨年9月に策定した県版・骨太方針『徳島新未来創生』政策集』に掲げるミッション「安心度UP」、「魅力度UP」、「透明度UP」に基づく政策の実現に積極的に取り組みます。

農業農村整備の分野では、まず、切迫する南海トラフ巨大地震や気象災害等から生命・財産を守る事前の備えとして「排水、地すべり、津波などの防災・減災対策」や「農業水利施設の老朽化対策」など、「県土強靱化」を強力に推進し、農山漁村地域の「安心度UP」を目指します。

また、「攻めの農林水産業」として、農業者の高齢化や担い手の減少が進む中、将来にわたる食料の安定供給を確保するため、情報通信環境等の整備による施設管理の省力化や「スマート農業」に対応する基盤整備を推進するとともに、「農地保全」を軸に持続可能な地域づくりを目指す「農村RMO」の全県展開を支援し、農林水産業の「魅力度UP」に挑みます。

今後とも本県農業の持続的発展に向けて、その礎となる「農業生産基盤の整備・強化」や「活力と魅力にあふれた農山漁村の創出」に、ソフト・ハード両面から取り組むとともに、徳島県土地改良事業団体連合会や市町村等と連携し「次世代を担う人材育成」をしっかりと支援して参ります。

徳島は阿波藍の産地・青色LED発祥の地としての「サステナブル」、豊かな自然環境がもたらす食の宝庫としての「ナチュラル」、四国遍路発心の地としての「スピリチュアル」といった魅力のあふれる地です。

これらの強みを最大限に活かし、「ずっと居りたい」、「いつも帰りたい」、「みんな行きたい」と感じていただける徳島を目指していきますので、いっしょに徳島の未来をつくりましょう！



新年のご挨拶

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和六年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いします。

昨年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和五年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第五次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネットワーク会長会議顧問
参議院議員 進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。

本年は元旦から能登半島地震が発生致しました。お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈り致しますとともにご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地域の復旧、復興に向け、私も全力を尽くしてまいります。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

徳島県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命致しました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願い致します。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円(TPP等対策:760億円、食料安全保障対策:460億円(うち重複300億円)、国土強靱化5か年加速化対策:857億円)が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力(食料自給力)の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 宮崎 雅夫

元日の夕刻に発生した「令和6年能登半島地震」により尊い命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被害に遭われ、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活基盤の回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧に向け、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する自然災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等が発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に皆様とともに力を合わせて対応してまいります。

さて、辰年を迎え、徳島県土地改良事業団体連合会ならびに会員各機関、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきつつ、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの地域事情に即した解決に向け、国政の場から全力で対応してまいりました。昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円（食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円）を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。

加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正予算と合わせた総額は6,240億円となっております。これから行われる通常国会において、参院予算委の理事として、早期成立に向け努力してまいります。

さらに、来る次回の通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」の四半世紀ぶりの改正が予定されていることから、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を深め、基本法に位置付けていく必要があります。加えて、土地改良が担う重要な役割としての農地や水利施設等の整備、保全管理、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組、農業農村関係人口の拡大など、土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります。決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、徳島県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様の方々の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

令和6年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要

令和5年12月22日（金）、国の令和6年度予算案が閣議決定されました。
 農林水産関係予算は、2兆2,686億円（対前年度比100.0%）となっています。
 このうち農業農村整備事業は、3,326億円で、対前年度比100.1%の増額予算となっています。

農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要

（単位：億円）

事 項	令和5年度 当初予算額	令和6年度 概算決定額 A	令和5年度 補正予算額 B	合 計 A+B
農業農村整備事業<公共>	3,323	3,326 (100.1%)	1,777	5,103
農業農村整備関連事業<非公共> （農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業 農山漁村振興交付金）	543	548 (100.9%)	-	548
農山漁村地域整備交付金<公共> （農業農村整備分）	591	588 (99.6%)	-	588
合 計	4,457	4,463 (100.1%)	1,777	6,240

（注）1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2. 下段（ ）書きは令和5年度当初予算額との比率である。

農業農村整備事業の概要

（単位：億円）

事 項	令和5年度 当初予算額 (A)	令和6年度 概算決定額 (B)	対前年度比 (B)/(A)	令和5年度 補正予算額 (C)	合計	
					((B)+(C)) (D)	対前年度比 (D)/(A)
農業農村整備事業						
国営かんがい排水	1,038	1,033	99.5%	138	1,171	112.8%
国営農地再編整備	403	396	98.2%	226	622	154.2%
国営総合農地防災	281	269	95.6%	77	346	122.9%
直轄地すべり	7	7	100.0%	-	7	100.0%
水資源開発	85	85	100.0%	10	95	111.6%
農業競争力強化基盤整備	635	680	107.1%	891	1,571	247.3%
農村地域防災減災	411	381	92.7%	393	774	188.3%
中山間地域農業農村総合整備	49	45	92.0%	14	59	121.1%
農村整備	72	69	94.9%	12	81	112.2%
土地改良施設管理	213	231	108.4%	15	246	115.4%
その他	127	130	102.7%	-	130	102.7%
合 計	3,323	3,326	100.1%	1,777	5,103	153.6%

（注）1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2. 対前年度比は令和5年度当初予算額との比率である。
 3. その他には後進地域開発特例法適用団体土地改良等関係開発指定事業補助率差額金を含む。
 4. 国営かんがい排水には土地改良施設突発事故復旧事業（直轄）を、農業競争力強化基盤整備には土地改良施設突発事故復旧事業（補助）を含む。

第45回全国土地改良大会福井大会

令和5年10月11日（水）、第45回全国土地改良大会福井大会が「水土里（みどり）がある 幸福（しあわせ）がある 笑顔がある～ふくいで語る土地改良の未来～」をスローガンとして、サンドーム福井（越前市）において開催されました。大会には、全国から土地改良関係者約4,000名が参集しました（徳島県からは岡本会長はじめ本会及び土地改良区役員25名が参加）。

はじめに、主催者である福井県土地改良事業団体連合会の山崎正昭会長から開会挨拶があり、続いて、同じく主催者である全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長の代読で義経賢二副会長から「この大会を通じて、土地改良の大切さを全国の皆様と共有し、発信していこう。」との挨拶がありました。

引き続き、地元開催県の杉本福井県知事を始め、山田越前市長、佐々木鯖江市長からは歓迎のことばをいただき、武村農林水産副大臣を始め、福井県選出国会議員の稲田衆議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤、宮崎両参議院議員からそれぞれ来賓の祝辞がありました。

式典では、土地改良事業の推進にご尽力され多大なる貢献をされた方々の功績を讃え、表彰式が執り行われました。本県からは、阿部正徳 吉野川善入寺土地改良区理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

また、基調講演では、「未来へつなぐ土地改良」と題して、青山健治 農林水産省農村振興局次長から「福井の農業・土地改良の歩み」、「土地改良の更なる推進」などについての講演、優良事例紹介として、南砺市土地改良区 定司俊憲理事長から「土地改良区における女性理事登用」、福井県土地改良事業団体連合会 川合久利子理事から「女性理事として」についての発表がありました。その後、福井県立大学生物資源学部創造農学科の学生2名により大会宣言が読み上げられ、最後に、次期開催県である千葉県へ大会旗が引き継がれました。

翌日の10月12日（木）には、世界かんがい施設遺産に認定された、福井市の「足羽川（あすわがわ）頭首工」を事業視察しました。



阿部理事長



大会会場（サンドーム福井）



事業視察（足羽川頭首工）

農業農村整備の集い

—農を守り、地方を創る予算の確保に向けて—

令和5年11月7日(火)、シェーンバッハ・サボー(東京都/砂防会館別館)において、「農業農村整備の集い」が開催され、全国の土地改良関係者約1,100名(徳島県からは岡本会長はじめ本会及び土地改良区役職員4名が参加)、国会議員約145名が参集しました。

主催者である全国土地改理事業団体連合会の二階俊博会長からは、男女共同参画が土地改良団体の強化のために必要不可欠の課題であるとともに、「戦う土地改良」として、来年度の土地改良予算の確保のため一致団結していく必要がある旨の挨拶がありました。

また、宮下 農林水産大臣、高市早苗 経済安全保障担当大臣、細田健一 自由民主党農林部会長、全国水土里ネット会長会議顧問 進藤金日子参議院議員から来賓祝辞がありました。

その後、土地改良大会の次回開催県 千葉県土連 小島参事から予算確保等の要請文案の提案・採択(全会一致)、全国水土里ネット女性の会 根本由紀子会長から「新たな取組の報告」、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員から情勢報告が行われ、最後に、土地改良予算の確保及び誰もが活躍できる社会

の実現に向けて、参加者全員による「ガンバロウ三唱」で閉会しました。

集い終了後、本県からの参加者は徳島県土地改理事業団体連合会の要請書を佐藤啓 財務大臣政務官、細田健一 自由民主党農林部会長に、中西祐介 参議院議員の同席のもと要請活動を行い、併せて本県選出国会議員を訪問し、徳島県土地改理事業団体連合会の要請書と集いで採択された要請文により要請活動を行いました。



二階全土連会長



全国水土里ネット会長会議顧問
進藤参議院議員



全国水土里ネット会長会議顧問
宮崎参議院議員

令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会in kazuno —今、はじまる。まずはあなたの「まち」の土地改良区から—

令和5年9月27日（水）、ホテル鹿角（秋田県鹿角市）において、初の地方開催となる「水土里ネット男女共同参画推進大会」が開催され、全国の土地改良関係者約200名（徳島県からは板東常務理事はじめ土地改良区職員3名が参加）が参集しました。

はじめに、主催者である全国水土里ネット女性の会の根本由紀子会長から挨拶がありました。また、来賓として全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫・進藤金日子参議院議員、全国土地改良事業団体連合会の室本隆司専務理事から来賓祝辞がありました。

つづいて、農林水産省 農村振興局 農村政策部の佐藤一絵部長から「土地改良区の未来を拓く多様な人材の活躍に向けて」と題し基調講演があり、その後、「男女共同参画社会を実現するためには」をテーマにパネルディスカッションが開催され、最後に、大会決議文が朗読され閉会しました。



根本会長挨拶



パネルディスカッションの様子

農業農村整備事業の更なる推進に向けた要請活動

令和5年11月7日（火）岡本会長、坂東副会長、板東常務理事及び本会職員が、佐藤啓 財務大臣政務官、細田健一 自由民主党農林部会長及び本県選出の国会議員に対し、本県の農業・農村は高齢化は進んでいるが若い世代も育ち、鳴門金時やレンコン、春ニンジン等儲かる農業が展開され、中山間地では営農を継続して国土を守っているとの現状を伝え、地域が効率的な農業を継続してできるよう、農業農村整備事業予算を確保し資材価格が高騰しても必要な基盤整備ができるよう要請活動を行いました。



写真中央（右）佐藤啓財務大臣政務官



写真中央（左）細田健一自民党農林部会長

令和5年度 換地関係異議紛争処理実務研修会

令和5年10月5日～6日、島根県の松江テルサで「令和5年度中国四国ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会」が開催されました。

農林水産省、中国四国農政局及び中国四国管内各県並びに各県土連より、換地業務に携わる41名の技術者が出席し、初日は農林水産省農村振興局土地改良企画課谷川企画官より「換地を取り巻く状況について」の講義があり、続いて換地関係異議紛争事例検討として、鳥取県土地改良事業団体連合会及び広島県土地改良事業団体連合会の事例発表があり、活発な討論が行われました。

2日目は高知県土地改良事業団体連合会の事例発表、意見交換に続いて全国土地改良事業団体連合会より中央換地センター報告として、換地関係異議紛争処理検討事例一覧、換地技術者名簿の分析等の説明がありました。

本研修会は換地関係異議紛争の未然防止や、異議紛争処理の参考として日頃の業務に生かされています。



研修の様子

令和5年度 土地改良施設の整備補修事例検討会

令和5年11月27日（月）午後1時半から、山口県山口市の防長苑において、中国四国農政局、全国土地改良事業団体連合会（以下、全土連）、中国四国管内八県の県・土地改良事業団体連合会（以下、連合会）から関係職員27名の出席のもと、令和5年度土地改良施設の整備補修事例検討会が開催されました。

この検討会は、土地改良施設の円滑かつ適正な管理を図るため、施設管理者の参考となる整備補修優良事例の検討を行うものです。今年度は、島根県、岡山県、高知県の各連合会より事例発表が行われ、審議の結果、優良事例として岡山県が選出されました。

各ブロックで選出された事例は全土連がとりまとめ、さらに審査を行い、他地区においても参考となる事例についてデータの共有が図られることとなっています。



事例検討会の様子

●発表事例

島根県：「土地改良区が管理する19か所の揚水機について省エネ化対策の検討を行った事例」

岡山県：「制御盤の更新にあたり、材質の見直しによりコストを削減した事例」

高知県：「管更正工法施工後のモニタリング調査」

会 議 ・ 行 事

開催日	会 議 ・ 行 事	開催地
10月	5日(木) 統合整備推進研修(会計研修)	徳島市
	5日(木)~6日(金) 令和5年度換地関係異議紛争処理実務研修会	島根県
	11日(水) 第45回全国土地改良大会福井大会	福井県
	19日(木) 令和5年度中国四国土地改良事業団体連合会協議会事務部会	香川県
11月	7日(火) 農業農村整備の集い	東京都
	農業農村整備事業の更なる推進に向けた要請活動	東京都
	8日(水) 農業農村整備広報担当者会議	東京都
	13日(月) 農業農村整備に関する意見交換会	徳島市
	22日(水) 徳島県土地改良区連合職員会役員会	県土連
	27日(月)~28日(火) 令和5年度土地改良施設の整備事例検討会	山口県
12月	29日(水) 土地改良区役職員研修会(徳島管内)	徳島市
	6日(水) 令和5年度管内各県耕地関係課長・土地改良事業団体連合会事務責任者合同会議	岡山県
	7日(木) 令和5年度中国四国土地改良事業団体連合会協議会事務責任者会議	岡山県
	12日(火) 土地改良区役職員研修会(美馬管内)	美馬市
	土地改良区役職員研修会(吉野川管内)	吉野川市
	26日(火) 令和6年度農業農村整備事業等予算(概算決定)に関する説明会	web会議

表紙の写真

シンビジウム(阿波市)

徳島県は、洋ランの栽培が盛んで、徳島市、阿波市、阿南市を中心に栽培されています。中でもシンビジウム(切り花)は全国有数の生産地で、主に京阪神市場に出荷されています。

シンビジウムは、花姿の美しさと、開花後の花の寿命が他の洋蘭より圧倒的に長く、生花でも長く楽しむことができ、花色も豊富で多種多様であることから、お祝いの贈り物として人気があります。



発行
みどり
水土里ネット徳島
徳島県土地改良事業団体連合会

〒770-0935 徳島市伊月町1丁目32番地
(徳島県土地改良会館)
代表(088)626-3211 FAX(088)655-3399
<https://tokudoren.jp>
印刷所 グランド印刷株式会社